

自動車地球温暖化対策実施方針

《 1 大規模荷主 》

事業者名	ハスクバーナ・ゼノア株式会社	事業所名	川越工場				
取組措置		具体的取組措置			H30	H31	H32
01	環境に配慮している貨物輸送事業者の選定 ----- (01) 貨物輸送事業者の環境配慮の確認	社内の貨物輸送委託を廃止し、路線便にて出荷を実施。それにあわせて各メーカーの環境配慮を確認			○	○	○
03	物流部門における二酸化炭素排出量の把握 ----- ()	貨物の輸送量の把握は継続実施、実績は規制値に対して1/10程度			○	○	○
04	積載率の向上 ----- (01) 商品の規格又は荷姿の標準化による積載率の向上	”地球にやさしい輸送”を全社の環境方針として取り上げて取り組んでいる。			○	○	○
04	積載率の向上 ----- (02) 梱包資材の軽量化・小型化の実施	”地球にやさしい輸送”を全社の環境方針として取り上げて取り組んでいる。			○	○	○
04	積載率の向上 ----- (03) 輸送量に応じた適正車種での発注	出荷時に20フィート/40フィートを使い分けを把握、管理している。コンテナが満載になるよう出荷日調整も行っている。			○	○	○
05	混載便の利用又は共同輸配送の実施 ----- (01) 混載便利用の取組	社内の貨物輸送委託を廃止し、路線便にて出荷を実施			○	○	○

自動車地球温暖化対策実施方針

06 低燃費車等の積極的利用及びエコドライブの推進 (03) 貨物輸送事業者に対し、エコドライブの推奨及び実施状況の確認	以前はサプライヤーからの直送便が多かったが、現在はエコドライブを推進している路線便(ヤマト運輸・佐川急便等)に代わってきている。既存の直送便の業者へは引き続き啓蒙活動に努める。	○	○	○
07 計画的な貨物輸送の推進 (01) 発注時間及び配送時間のルール化	午後2時までに受注システムから工務(出荷担当)へ出荷データが届くようルール化している。	○	○	○
07 計画的な貨物輸送の推進 (02) 多頻度少量輸送の見直し	1日2回あった貨物の引き取りを地域や出荷先をまとめることで1回の引き取りになるように見直しを進めている。	○	○	○
08 物流の効率化 (01) サードパーティロジスティクスの活用	社内の貨物輸送委託を廃止し、路線便にて出荷を実施	○	○	○
08 物流の効率化 (03) 輸送距離及び回数を削減する取組	今までは販売代理店へまとめて発送することが多かったが最近では通販のように顧客への直送便が増えてきたため、以前の取組が継続が難しくなってきたが、1日2回あった貨物の引き取りを地域や出荷先をまとめることで1回の引き取りになるように見直しができるように努力する。	○	○	○
09 貨物輸送事業者及び自社関連部門との情報共有 ()	1日2回あった貨物の引き取りを地域や出荷先をまとめることで1回の引き取りになるように見直しを実施するため情報の共有化を進めている。	○	○	○
10 周辺道路への路上駐停車及びアイドリング防止のための取組 ()	工場内に待機場、出荷場、荷卸場を整備済み。	○	○	○

自動車地球温暖化対策実施方針

《 3 マイカー通勤多数 》

事業者名	ハスクバーナ・ゼノア株式会社	事業所名	川越工場				
取組措置		具体的取組措置			H30	H31	H32
03	自転車への転換の推進	ポスター掲示や交通安全講習会(年1回)等に自転車通勤者も参加。安全運転と共に社員にエコドライブの啓発を図っている。			○	○	○
(01)	自転車の安全利用の促進						
03	自転車への転換の推進	屋根付き駐輪場を整備。			○	○	○
(02)	利用しやすい駐輪場の設置・維持管理						
04	時差通勤の実施	フレックスタイム勤務の導入。営業系部門と現業系部門で出勤時間を変えている。			○	○	○
()							
06	エコ通勤の推進	会社から片道2km以上の社員が自動車通勤対象。ガソリン代等は3ヵ月毎に見直しを実施。			○	○	○
(01)	自家用自動車の通勤手当及び許可基準等通勤制度の見直し						
06	エコ通勤の推進	毎月1回第1金曜日をエコ通勤日として従業員に自動車通勤の自粛をお願いしている。			○	○	○
(03)	ノーカーデーの実施						
06	エコ通勤の推進	エコ通勤結果を社内イントラネットにて掲示			○	○	○
(04)	エコ通勤キャンペーン等啓発活動の実施						

自動車地球温暖化対策実施方針

07 エコドライブの推進	ポスター掲示や交通安全講習会(年1回)等で安全とエコドライブの啓発を図っている。	○	○	○
(01) エコドライブの啓発				